

**PHILIPS**

Health Systems

CardioVascular

# Micro経食道トランスジューサ S8-3tが経食道超音波検査を変える

## 患者様に苦しくない術前検査を

心房細動は近年増加傾向にあり、超高齢化が進む今後は更に増加することが見込まれ、カテーテルアブレーションによる治療も積極的に取り組まれるようになった。心房細動の管理や治療前の経食道超音波検査の必要性も今後上昇すると考えられる。

今回、新たにリリースされたS8-3tは、チップの先端が7.5mm×5.5mmと超細径ながら、小児だけでなく成人の検査にも対応できるよう設計されている。本特集では、帝京大学医学部 片岡医師にS8-3tの使用経験を伺った。



S8-3t Micro 経食道トランスジューサ



かたおか あきひさ

**片岡 明久**

帝京大学医学部 内科学講座 助教

2003年高知医科大学卒。聖路加国際病院、榊原記念病院で研修後、千葉大学でPhD取得。2012～2014年ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院に留学してJASEの新編集長のMichael H. Picard先生から心エコーを学ぶ。2014年12月から現職。また、欧州心血管画像学会の若手の日本代表や「JACC: Cardiovascular Imaging」誌の編集コンサルト委員も務める。

患者様

『前回の検査では飲み込むのが苦しく、痛みも感じました。今回は”スツ”と入り、とても楽でした。全然違います。進歩した装置で検査が受けられて良かったです。』

—— 使用してのご感想をお聞かせ下さい

驚きました。まず、トランスジューサの挿入が楽で抵抗がありませんでした。アブレーション治療前の血栓検索や、脳梗塞における塞栓源検索の対象患者層は、咽頭反射の強い年齢層も多いため、トランスジューサの細さは大きな利点だと思います。従来の成人用経食道トランスジューサでの検査経験のある患者様の検査後の第一声全てを表していたと思います。

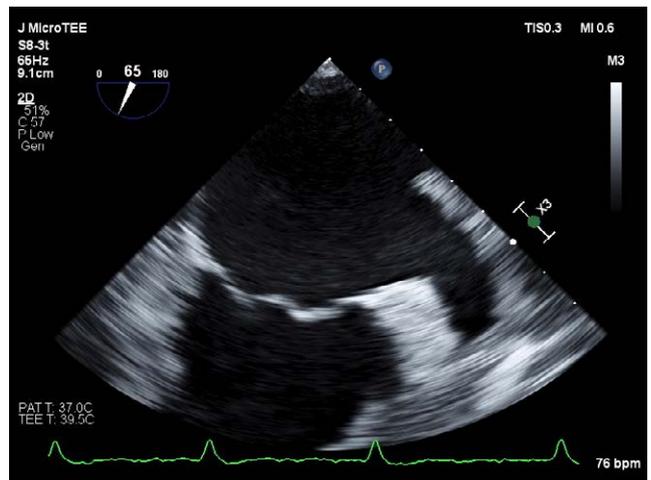
画質は血栓検索には申し分ありません

—— 画質はいかがでしたか？

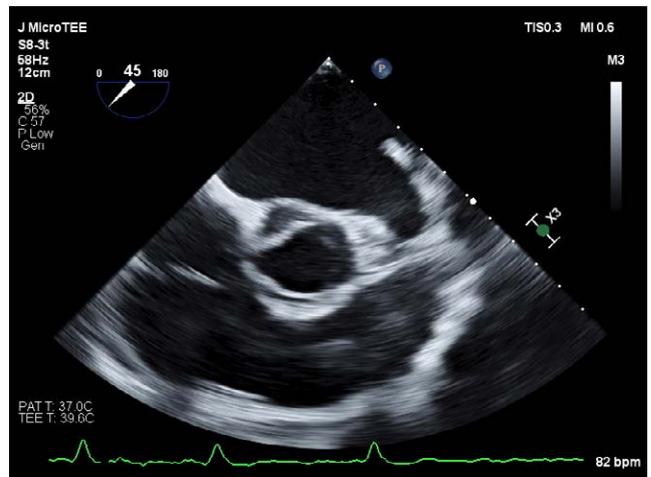
画質は血栓検索には申し分ありません。大動脈弁や左心耳は十分に観察が可能でした。カラードプラの感度も良く、あの細さでこれだけ見えたことに満足しています。例えばASが重症かどうか体表エコーだけでは悩む症例についても、今後は、経食道エコーを実施しやすくなると思います。ただし、僧帽弁疾患の精査等には、ペネトレーションの高い成人用の経食道トランスジューサや3D経食道トランスジューサで検査を実施すべきだと思いました。

—— 撮りかたのコツはありますか？

細径であるが故に、拍動や呼吸でどうしてもトランスジューサが食道壁から離れてしまいがちになるため、トランスジューサを上下左右に動かして圧着を維持すると良いと思います。



左心耳



大動脈短軸断面



僧帽弁逆流

製造販売業者

株式会社フィリップス・ジャパン

〒108-8507 東京都港区港南 2-13-37 フィリップスビル

お客様窓口 0120-556-494

03-3740-3213

受付時間 9:00～18:00

(土・日・祝祭日・年末年始を除く)

www.philips.co.jp/healthcare



販売名: フィリップス 食道向け超音波診断用プローブ S8-3t  
医療機器認証番号: 222ACBZX00052000  
特定保守管理医療機器 / 管理医療機器

改良などの理由により予告なしに意匠、仕様の一部を変更することがあります。あらかじめご了承ください。詳しくは担当営業、もしくは「お客様窓口」までお問い合わせください。記載されている製品名などの固有名称は、Koninklijke Philips N.V. またはその他の会社の商標または登録商標です。

17CVU02

101702001-FK Printed in Japan

© 2017 Philips Japan, Ltd.